

記 事

◎第1回理事会(昭.26.6.13)出席者:大西会長,稲浦,立花両副会長,樺島,高畑,富樫,西松,本間,丸安,米元の各理事及び新旧事務の引継のため三浦前会長,佐藤,北村,市浦,国分の前理事出席された。

協議事項:(1)各理事の担当部門を次の通り決定した。

総務部:	部長	富樫 凱一	次長	塩 沢 弘
経理部:	部長	西松 醇厚	次長	今岡 鶴吉
編集部:	部長	本間 仁	次長	米元 卓介
調査部:	部長	高畑 政信	次長	樺島 正二
研究連絡部:	部長	仁 杉 巖	次長	丸安 隆利

(2)他の学協会との連絡担当理事を次の通り決定した。

(a) 日本学術会議力学研究連絡委員会:	丸安理事
(b) 日本工学会	本間 "
(c) 都市不燃化期成同盟	樺島 "
(d) 工業技術庁関係	高畑 "
(e) 建設機械化協会	富樫 "
(f) 日本漕漕及び水路委員会	米元 "
(g) 中央建設業委員会	大西会長
(h) 日本写真測量学会	本間理事
(i) 学生の集い	丸安 "

(3)支部交付金を次の通り決定した。北海道:41,000円,東北:44,000円,中部:58,000円,関西:64,000円,中四:50,000円,西部:53,000円

(4)日本学術会議事務局から日本学士院会員13名補充について候補者を6月30日までに推薦するよう照会があつたので直ちに各支部に照会し,協議の結果,本間理事が先輩諸氏の意見を敬し,会長と相談の上決定することとし,結局当学会としては吉町太郎一君を推薦することに決定した。(5)日本工学会々長選挙には前理事長大野巖氏を推すこととする。(6)基金運用については次回理事会までに各理事研究のこと。(7)今夏講習会は仁杉,丸安両理事において立案のこと。(8)講座パンフレット刊行については調査部で研究のこと。(9)毎日学術奨励金交付候補者推薦については編集部及び研連部で相談すること。(10)昭和26年度編集委員は別項記事の通り承認。(11)土木工学叢書契約書案を各理事に於て研究次回で決定する。

◎各種委員会

(1)用語委員会(昭.26.6.1)出席者:井口,増村,森,飯塚,久保,野口の各委員,協議事項:測量,河川,道路の追加及び応用力学用語の審議を行つた。

(2)編集打合せ(昭.26.6.6)出席者:本間,奥田,

米元,三宅の諸氏,協議事項:編集方針及び各委員の交代について協議した。

(3)講習会打合せ(昭.26.6.18)出席者:仁杉,米元,丸安,高畑の諸氏,協議事項:夏期講習会の題目及び講師,講習日時,見学箇所等について協議の結果次のような案を得た。

日 時:8月23~25日

特別講演:	最近の橋梁技術の趨勢	田中 豊
同上:	コンクリートの進歩の現状	吉田徳次郎
講習:	ダム設計条件について	新井 義輔
"	:コンクリートダムの施工設備	藤田 博愛
"	:小河内ダムの建設	佐藤 志郎
"	:AEコンクリート	国分 正胤
"	:鉄道橋の保守並びに補強方法	友永 和夫
"	:道路橋の設計施工上注意すべき事項	村上 永一
"	:橋脚による洗掘とその対策について	石原藤次郎
"	:橋梁におけるアルミニウム合金の活用について	福田 武雄
"	:簡易な吊橋の設計について	平井 敦

見学箇所:(1)小河内ダム,(2)四ツ木橋及び隅田川橋梁

(4)講習会講師打合せ(昭.26.6.29)出席者:大西会長,吉田前会長,仁杉,丸安両理事,新井,藤田,国分,友永,村上,福田の各講師

協議事項:(1)大体において原案了承,(2)小河内ダム建設については佐藤志郎氏に講習を追加依頼すること,(3)7.24日頃までに講習前刷調製のため原稿を執筆のこと了承,(4)大体1人10頁程度(図面を含み)(5)前刷をパンフレット式にするか合本にするかは理事会一任。

(5)編集委員会(昭.26.6.25)出席者:本間,米元の正副委員長,以下各委員

協議事項:第36巻第8号登載論文を次の通り決定した。石原藤次郎:日本学術会議の近況について,

川瀬正俊・吉井彌七:石淵堰堤における岩石爆破工事について,福井武弘:衝合溶接の疲労強度決定に関する一統計的考察,久宝保:底流砂又は伏流に関する一考察,宮崎茂一:繋船岸の築造限界について,竹下春見:路盤とコンクリート舗装の龜裂,松本有:鉄道連絡船の衝撃によるケーソン岸壁の移動について,村山朔郎・赤井浩一:土堤内応力分布の解法について,山本弘之:干拓地の排水樋門に対する一考察,勝見進:高低測量に於て直接地盤高を得る改良箱尺について,米元卓介:流量年表の信頼度について,

◎その他

(1) 第1回学生員見学会(昭.26.6.29) 学生員の指導を目的として今後見学会を度々催すこととし、東京附近の学生員を対象として第1回見学会を開催し、東京港の現状並びに将来計画と跳上橋として有名な勝鬨橋の操作を見学することとした。当日13時までに東京港湾局前に全員集合し、同局員の案内で、

13時30分東京都港湾局の「しのゝめ丸」で芝浦海岸の竹芝棧橋を出帆し、東京港々内を巡航し、14時10分築地中央卸売市場棧橋に上陸、中央区小田原町と同区月島に跨る勝鬨橋の開閉施設を見学、15時30分中央卸売市場棧橋発豊洲町の石炭荷揚設備新設工事を見学し17時竹芝棧橋着解散。

初めての催しで参加希望者が多かつたが船の定員の関係上人員を制限したのは残念であつた。

指導者：本間理事(東大教授)

参加人員 43名

東京大学分校生産技術研究所 4名、東京大学工学部土木工学科 10名、日本大学工学部土木工学科 19名、早稲田大学理工学部土木工学科 5名、芝浦工業大学土木工学科 4名、東京大学農学部 1名、

本見学会は東京都港湾局技術長二宮錠治氏、建設局道路課長滝尾達也氏の御厚意と港湾局企画室江端正義氏、中央区役所勝鬨橋所長小紫謹彌氏の熱意を以ての御案内と御説明で学生員の土木工学に対する進歩向上

に多大の効果を挙げ得た事に対し深謝の意を表する次第である。

(2) 理事改選：現理事 塩沢 弘君健康上の理由によつて退任方申出があつたので臨時常議員会(書面投票)において後任に、運輸省港湾局建設課長 坂本信雄氏が当選された。

支部だより

◎中部支部 第3回見学会(昭.26.6.9)参加者 47名、見学箇所：愛知県布袋瀬戸線鹿乗橋補強工事

見学概要：立神支部長以下 47名、中央線高藏寺駅前に集合、愛知県用意のトラックに便乗、玉野川の清流に沿つて上ること3分、絶景の溪谷にのぞむ鹿乗橋(二鉸式アーチ橋、経間 27.3m 2連、橋長 73.0m、有効幅員 3.1m の鋼橋)の現場に到着、立神支部長の挨拶について、県名古屋出張所長川口氏が同橋の補強工事(拱肋を利用してメラン式工法により型枠を吊ボルトで吊下げ橋脚及び橋台に鉄筋を挿入補強し二鉸式鉄筋コンクリート・アーチとする)の概要を予め全員に配布されたパンフレットについて説明し、附近の沿革、旧橋の概況、設計方針及び施工方法を詳細に述べ、文本工事施工から得た経験、疑問並びに考案があつた。続いて活潑な質疑応答の後工事現場を見学した。尚希望者は同橋から約2km上流の定光寺城ヶ嶺橋及び建設中の愛岐道路を見学して解散した。

昭和26年6月分入退会報告(26.6.1~26.6.30)

1. 入 会	178名(特別員11, 正員31, 准員40, 学生員96)
2. 復 活	21名(正員17, 准員4)
3. 退 会	11名(正員2, 准員8, 学生員1)
4. 死 亡	なし
5. 転 格	125名(准員より正員へ121, 学生員より准員へ4)

会員現在数(昭.26.6.30現在)

名誉員	賛助員	特別員	正員	准員	学生員	計
16	15	164	4 063	5 607	1 015	10 880

昭和26年7月25日印刷 土木学会誌 定価 80円

昭和26年7月30日発行 第36巻第7号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
印刷者 東京都港区溜池町5番地 大沼正吉
印刷所 東京都港区溜池町5番地 株式会社技報堂

東京都中央区区内千代田区大手町2丁目4番地 電話和町倉(20)3945番

発行所 駐 關 土 木 学 会 振替東京16828番